

THE ASAHI GLASS FOUNDATION

af
2025

公益財団法人 旭硝子財団

THE ASAHI GLASS FOUNDATION




当財団について
詳しくはこちら

旭硝子財団は、人類が真の豊かさを享受できる
新たな社会および文明の創造に寄与することを目的として、
1933年に設立

— HISTORY —


旭硝子財団のあゆみ

**奨学プログラム**
給付型奨学金
大学院生：日本人・留学生

**啓発支援プログラム**
地球環境問題の解決に
向けた取組みを支援
高校生など

af

**研究助成プログラム**
大学・高専への助成
大学等の研究者

**顕彰プログラム**
地球環境問題の解決に向けて
貢献した業績を顕彰
世界の研究者

**環境危機時計**
人類存続に対して抱く
危機感を時刻で表現

- 1933 ● 旭硝子株式会社が創立25周年を記念して旭化学工業奨励会を創設
- 1934 ● 商工省より財団法人としての認可を受け、大学の応用化学分野への研究助成を開始
- 1957 ● 旭硝子株式会社が創立50周年を記念して旭硝子奨学会を創設
- 1958 ● 旭硝子奨学会が日本人学生に対する奨学金給付事業を開始
- 1961 ● 旭硝子工業技術奨励会と改称
- 1982 ● タイ・チュラロンコン大学への研究助成を開始
- 1988 ● インドネシア・バンドン工科大学への研究助成を開始
- 1990 ● 財団法人 旭硝子財団と改称
旭硝子奨学会が外国人留学生に対する奨学金給付事業を開始
- 1992 ● ブループラネット賞の贈賞を開始
「地球環境と人類の存続に関するアンケート調査」を開始
「人文・社会科学系研究助成」を開始
- 2009 ● 公益財団法人へ移行
- 2012 ● タイ・キングモンクット工科大学トンブリ校への研究助成を開始
- 2018 ● 旭硝子奨学会と合併し、奨学事業を承継
- 2020 ● ベトナム・ハノイ工科大学への研究助成を開始
- 2022 ● ブループラネット賞創設30周年記念シンポジウムを開催
- 2023 ● 「ブループラネット地球環境特別研究助成」プログラムの採択を開始
奨学生を対象に「海外研究活動支援奨学金」を開始
- 2024 ● CMD（修士博士一貫奨学生）の採用を開始
能登半島地震災害奨学金を創設
啓発支援プログラムとして、「若い世代のための地球環境問題ワークショップ等」の採択を開始



正味財産および経常費用

正味財産（2025年2月末現在）…………… 380億円
経常費用（2024年度）…………… 13.73億円

奨学プログラム

産業、経済及び社会の進歩を担う優れた人材を育成するために、大学院生等に給付型奨学金を支給しています。



プログラムについて
詳しくはこちら

奨学プログラムは、1957年に設立された旭硝子奨学会の事業として始まりました。1990年からは留学生、2012年からは東日本大震災、2024年からは能登半島地震の被災高校生へも支援を拡大しました。2018年からは旭硝子財団のプログラムの一環として、持続可能な社会を担う人材育成を支援しています。

給付型奨学金の 毎月支給

より充実した研究活動、学生生活を過ごしていただくことを目的としています。



修士博士一貫プログラム (CMD)

できるだけ長く奨学生に寄り添うことで、高度専門性、キャリアを身に付けていただくことを目的としています。



海外研究活動支援 奨学金

海外での体験、最先端の研究者との出会いを財産にいただくことを目的としています。

国際学会での発表 短期留学支援



各種交流会

奨学生同士のつながりを大切に、交流を通じて、異分野の研究を知り、幅広い視点を持っていただくことを目的としています。



授与式



交流会

災害支援

災害により大きな被害を受けられた高校生の学びの機会確保を目的とした支援も実施しています。(2012年東日本大震災奨学金、2024年能登半島地震災害奨学金)

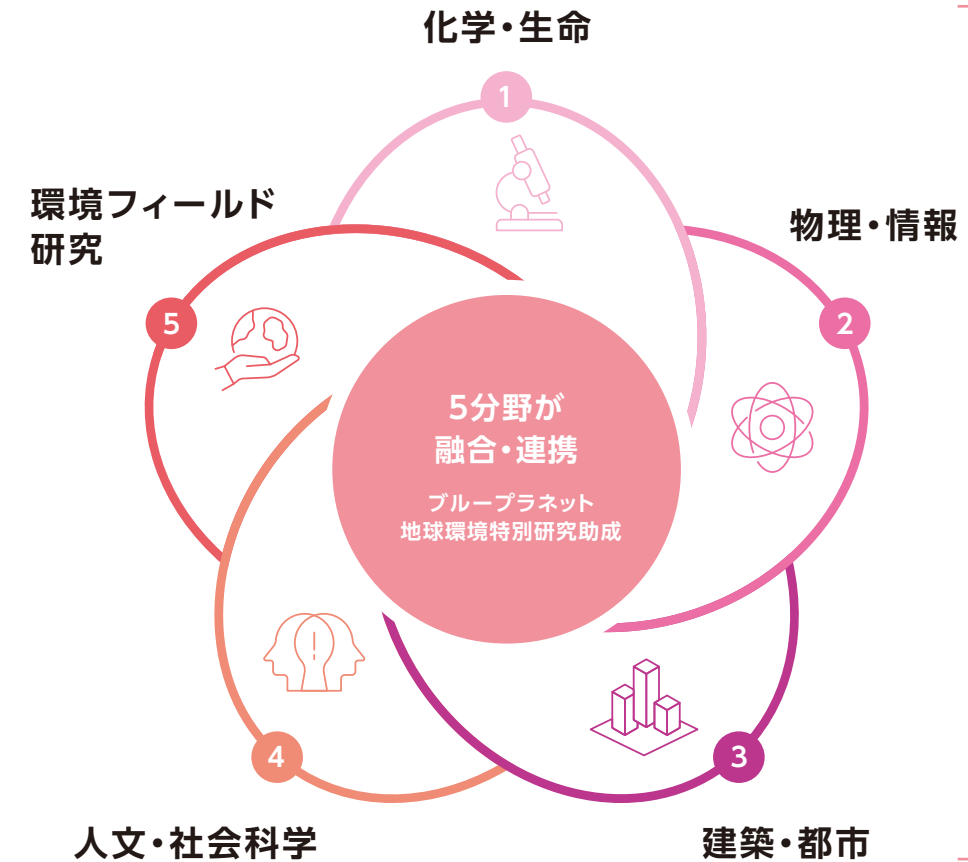
研究助成プログラム

次世代社会の基盤を構築するような独創的な研究、および社会の重要課題の解決に指針を与えるような研究を助成しています。



プログラムについて
詳しくはこちら

研究助成プログラムは、国内の大学、高等専門学校に勤務し、主体的に研究を進めている常勤の研究者向けに、基礎研究、社会実装、分野融合等の幅広い研究を対象として支援しています。また、複数年に渡る継続支援も特徴としています。



助成分野は幅広く、また各分野の融合研究も対象

対象者	国内の大学とその附属研究所、大学共同利用機関、高等専門学校に勤務し、主体的に研究を進めている原則として常勤の研究者。任期付研究者の場合には、当財団の定めたガイドラインがあります。
助成金額	100万円～3,000万円(プログラムによって助成額は異なります)
応募情報	毎年6月に応募要項を公開します。研究助成プログラムの詳細は、当財団のウェブサイトをご覧ください。

海外研究助成

タイ・チュラロンコン大学、タイ・キングモンクット工科大学トンブリ校、インドネシア・バンドン工科大学、ベトナム・ハノイ工科大学の研究者に対して、助成を行っています。



顕彰プログラム

ブループラネット賞を通じて、地球環境問題の解決に向けて著しい貢献をされた個人および組織を顕彰しています。



プログラムについて
詳しくはこちら



ブループラネット賞

旭硝子財団は、地球サミットが開かれた1992年に、地球環境国際賞としてブループラネット賞を創設いたしました。その名称は、宇宙飛行士ガガーリンの言葉「地球は青かった」にちなみ、美しい地球を未来へつなぐ願いを込めています。



8月から10月にかけて国内外の推薦人に候補者の推薦を依頼し、その中から原則として毎年2件を選定します。翌年6月に受賞者を発表し、秋には受賞者をお迎えして表彰式典(東京)と講演会(東京・京都)を開催します。

トピックス



受賞者による記念講演

受賞者による記念講演の後、引き続き活発な質疑応答が行われます。講演会への参加は、夏頃より財団のウェブサイトにて募集します。過去の講演会の動画は、歴代受賞者一覧の各受賞者ページからご覧いただけます。



ブループラネット賞表彰状とトロフィー

このトロフィーのテーマは、地球の水と大気です。クリスタルガラスの球体にシンボルマークをあしらったシンプルな造形の美しさが、多様な生命が環境と調和する美しい星、ブループラネットを表現しています。

Blue Planet Prize

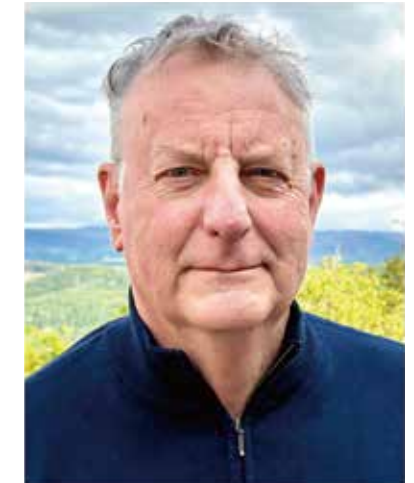
2025年(第34回)
ブループラネット賞受賞者



ロバート・B・ジャクソン教授(米国)

スタンフォード大学地球システム科学科

森林・草原・湿原などの陸域生態系の炭素循環の専門家で、土壌・植生・土壌細菌群集の関する先駆的な研究を行ってきました。また、化石燃料の使用や自然の生態系から発生する二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素などの温室効果ガスの収支を定量化しています。2017年からは、グローバルカーボンプロジェクト(GCP)の議長として温室効果ガス排出量の監視と削減を主導しています。



ジェレミー・レゲット博士(英国)

ハイランド・リワイルディング社創設者・CEO
カーボン・トラッカー・イニシアティブ初代会長

Carbon Tracker Initiative (CTI) の初代会長として「カーボンバブル」の概念を提唱し、化石燃料資産の経済リスクを明らかにしました。CTIの活動を通じて投資家や政策立案者に影響を与え、ダイベストメント(投資撤退)運動を促進しました。また、経済活動と環境保全の両立を目指す実践的な活動として、英国を代表する太陽光発電企業を創業。最近ではスコットランドで自然回復と地域社会の繁栄を結び付ける取り組みを推進しています。

歴代受賞者一覧 ▶



ブループラネット賞 おもしろ教室シリーズ

受賞者の研究内容を易しく紹介するコミック



ブループラネット賞 ものがたり

受賞者の生い立ち・業績を物語形式で紹介するウェブサイト



環境危機時計

「環境危機時計」の時刻は、環境問題の有識者が人類存続に対して抱く危機感を表しています。



環境危機時計について
詳しくはこちら

啓発支援プログラム

未来を担う若者たちに地球環境問題への関心を高めてもらい、その解決に向けた行動を促すため、専門家による講演や学校での探究学習のサポートなどを行っています。



プログラムについて
詳しくはこちら

地球環境を保全するにはグローバルな対策が不可欠であり、世界の人々が環境問題の解決に向けて共通の認識を深め、協働関係を育むことが重要です。そこで、1992年より、世界各国の政府や民間の環境問題に関する有識者を対象に「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」を実施し、調査結果を毎年9月に公表しています。

啓発支援事業は、ブループラネット賞の受賞業績をテーマにしたワークショップや探究学習活動を支援する「若い世代のための地球環境問題ワークショップ等」を実施しています。このプログラムを通じて、探究学習グループの調査や研究、学習の幅を広げ、若い世代の地球環境問題への理解を深めることを目指しています。

2024年の環境危機時計の時刻は9時27分で、昨年より4分針が戻りました。
2021年から4年連続で時計の針が戻りました。

世界の環境危機時計の時刻の推移



調査期間	毎年4月から6月末まで
調査対象	世界各国の政府・自治体、非政府組織、大学・研究機関、企業等で環境問題に携わる有識者 (旭硝子財団保有データベースに基づく)

一般人(日本)の環境危機意識調査

全国各地10~60代の男女1,092名(Z世代:18~24歳 522名、大人世代:25~69歳 570名)に対し、環境問題への危機意識および行動について把握するため、「2024年(第5回)生活者の環境危機意識調査」を実施しました。

●あなたの考える「環境危機時計」は何時何分?



詳しくはこちら

学校等主催の ワークショップ、イベント等

- 高等学校
- 高等専門学校
- 大学等

環境問題の 専門家を派遣

学校からの要望をもとに
当財団が様々な分野の専門家を派遣します。

派遣した専門家が行うこと

講演・講義の実施

ワークショップ等で講演を行ったり、派遣先での専門的な議論にも参加します。

対象者	日本国内の高等学校、高等専門学校、大学の学校等、学校等に付属する団体、学校等が主催する会合、および学校等の生徒、学生が参加することができる学校外のグループに所属する者。
応募情報	4月と10月の年2回募集します。詳細は当財団のウェブサイトをご覧ください。

役員・評議員（2025年6月現在）

役員

●理事長(代表理事)

島村 琢哉 AGC(株)取締役会長

●専務理事(代表理事)

杉本 直樹(常勤) 元AGC(株)執行役員 技術本部 材料融合研究所長

●理事 (以下、五十音順)

大越 慎一 東京大学大学院理学系研究科長・理学部長

熊坂 隆光 産経新聞社相談役

佐藤 郁哉 一橋大学名誉教授

白井 克彦 早稲田大学名誉顧問

杉山 秀二 日本情報経済社会推進協会会長、元経済産業省事務次官

中條 善樹 京都大学名誉教授

坪村 太郎 成蹊大学名誉教授

中井 検裕 東京科学大学名誉教授

野依 良治 名古屋大学特別教授

波多野 睦子 東京科学大学理事・副学長

林 良博 東京大学名誉教授、国立科学博物館顧問

平井 良典 AGC(株)代表取締役 社長執行役員CEO

平尾 公彦 京都大学福井謙一記念研究センター リサーチダイレクター、東京大学名誉教授

前迫 ゆり 奈良佐保短期大学教授・副学長、元大阪産業大学大学院教授・研究科長

吉川 洋 東京大学名誉教授

吉川 弘之 日本学士院会員、大阪/名古屋国際工科専門職大学学長、元日本学術会議会長、東京大学名誉教授・元総長

●監事

藤野 隆 元旭硝子(株)取締役 常務執行役員CFO

三毛 兼承 (株)三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役 執行役会長

若林 辰雄 三菱UFJ信託銀行(株)特別顧問

評議員

相澤 益男 東京科学大学名誉教授、旧東京工業大学元学長

伊賀 健一 東京科学大学名誉教授、旧東京工業大学元学長

今井 通子 (株)ル・ベルソー代表取締役(登山家)

大宮 英明 三菱重工業(株)名誉顧問

加藤 良三 元駐米大使

倉田 英之 AGC(株)代表取締役・専務執行役員CTO

河野 俊行 九州大学高等研究院特別主幹教授、国際イコモス名誉会長

小林 健 三菱商事(株)相談役

小宮山 宏 (株)三菱総合研究所理事長、元東京大学総長

佐藤 禎一 元ユネスコ代表部特命全権大使

島田 仁郎 元最高裁判所長官

中村 桂子 JT生命誌研究館名誉館長

松尾 憲治 明治安田生命保険(相)名誉顧問

宮地 伸二 AGC(株)代表取締役・副社長執行役員CFO・CCO

毛利 衛 宇宙飛行士、日本科学未来館名誉館長

※常勤の記載のない役員・評議員は非常勤

委員（2025年6月現在）

研究助成選考委員

●化学・生命分野

大越 慎一* 東京大学大学院理学系研究科長・理学部長

浅沼 浩之 名古屋大学大学院工学研究科教授

植村 卓史 東京大学大学院工学系研究科教授

小川 順 京都大学大学院農学研究科教授

谷口 正輝 大阪大学産業科学研究所教授

林 晃敏 大阪公立大学大学院工学研究科教授

尾藤 晴彦 東京大学大学院医学系研究科教授

松原 誠二郎 京都大学国際高等教育院特定教授

●物理・情報分野

波多野 睦子* 東京科学大学理事・副学長

伊藤 寿浩 東京大学大学院工学系研究科教授

中村 宏 東京大学大学院情報理工学系研究科教授

平川 一彦 東京大学名誉教授

湯浅 新治 産業技術総合研究所エレクトロニクス・

製造領域上級首席研究員

●建築・都市分野

中井 検裕* 東京科学大学名誉教授

高口 洋人 早稲田大学理工学術院教授

藤田 香織 東京大学大学院工学系研究科教授

●人文・社会科学分野

佐藤 郁哉* 一橋大学名誉教授

梅津 千恵子 東北公益文科大学公益学部教授、京都大学名誉教授

柳 憲一郎 明治大学名誉教授

山田 高敬 金城学院大学国際情報学部教授、名古屋大学名誉教授、
東京都立大学名誉教授

●環境フィールド研究分野

前迫 ゆり* 奈良佐保短期大学教授・副学長、
元大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授・研究科長

大黒 俊哉 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

川北 篤 東京大学大学院理学系研究科附属植物園教授

*選考委員長

奨学委員

平尾 公彦* 京都大学福井謙一記念研究センターリサーチダイレクター、東京大学名誉教授

持田 信樹 東京大学名誉教授

*奨学委員長(選考委員は非公開)

顕彰委員・顕彰選考委員

野依 良治* 名古屋大学特別教授

林 良博** 東京大学名誉教授、国立科学博物館顧問

*顕彰委員長、**顕彰選考委員長(顕彰委員、選考委員は非公開)

啓発支援委員・啓発支援選考委員

林 良博* 東京大学名誉教授、国立科学博物館顧問

橋本 禎*** 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

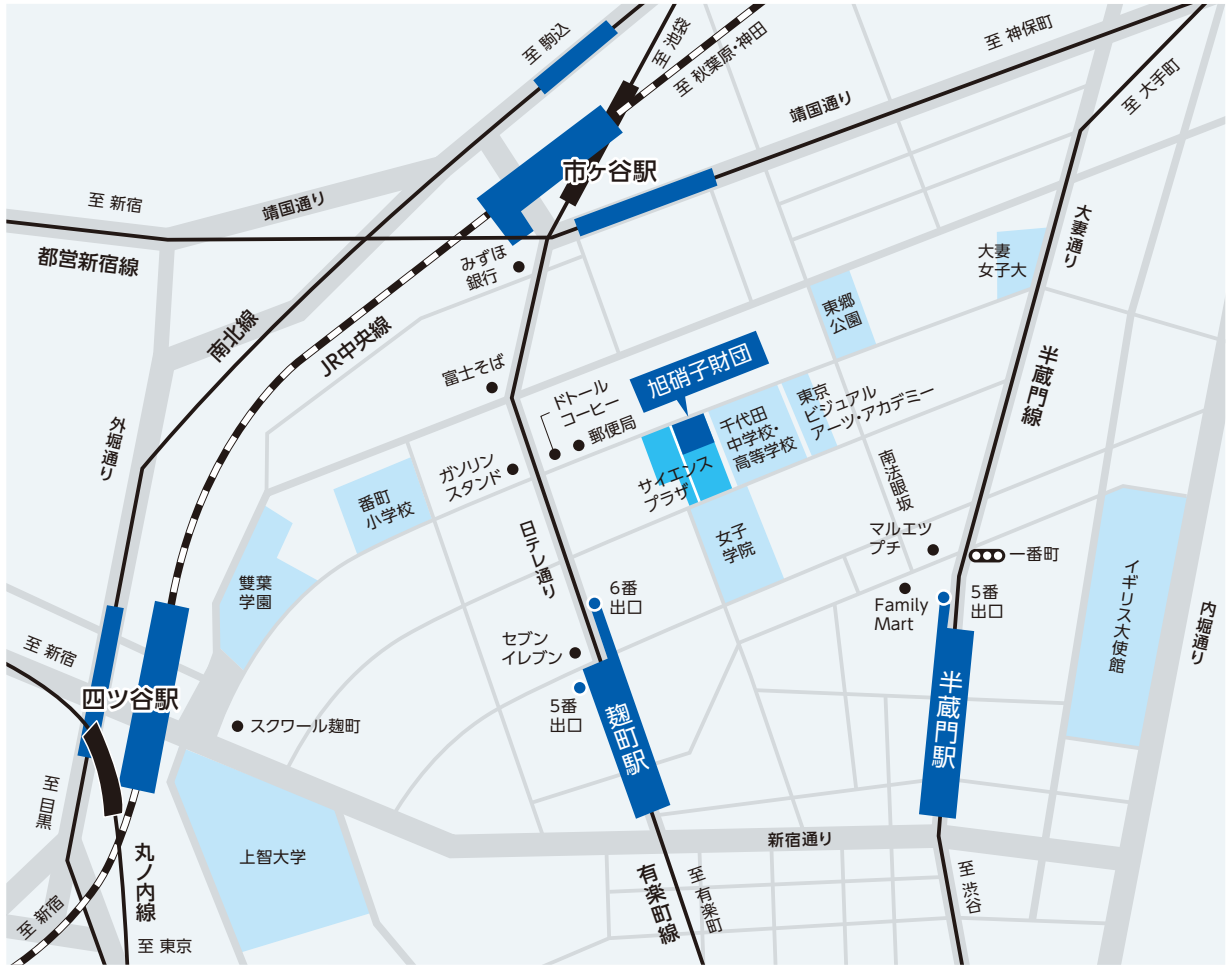
江守 正多** 東京大学未来ビジョン研究センター教授

町田 智子*** 公益財団法人文字・活字文化推進機構専務理事

*啓発支援委員長、**啓発支援選考委員長、***啓発支援選考委員

ACCESS

アクセス



公益財団法人 旭硝子財団
THE ASAHI GLASS FOUNDATION

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ2F

TEL:03-5275-0620 / FAX:03-5275-0871

✉ post@af-info.or.jp